

令和4年度第1回平川市総合教育会議議事録

1 日 時 令和5年2月14日（火）午後2時30分～午後4時8分

2 場 所 平川市役所本庁舎4階 大会議室1

3 出席者

- | | |
|-----------|---------|
| (1) 市長 | 長 尾 忠 行 |
| (2) 教育長 | 須々田 孝 聖 |
| (3) 教育委員会 | |
| 教育長職務代理者 | 工 藤 甚 三 |
| 委員 | 葛 西 万 博 |
| 委員 | 中 嶋 静 賢 |
| 委員 | 加 藤 恒 有 |
| 委員 | 工 藤 泰 子 |

・事務局

- | | |
|------------|---------|
| (1) 教育委員会 | |
| 事務局長 | 一 戸 昭 彦 |
| 学校教育課長 | 田 中 純 |
| 指導課長 | 工 藤 良 信 |
| 生涯学習課長 | 後 藤 恭 行 |
| スポーツ課長兼 | 高 阪 仁 |
| 学校給食センター所長 | |
| 学校教育課長補佐 | 葛 西 孝 弘 |
| (2) 総務部 | |
| 総務部長 | 對 馬 謙 二 |
| 総務課長 | 佐 藤 崇 |
| 総務課行政係長 | 内 山 聖 子 |
| 総務課行政係主事 | 今 井 紳 椰 |

4 会議の次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 学校再編計画について（学校教育課）

- ①再編計画策定までの経緯について
 - ②現在の進捗状況について
 - ③今後のスケジュールについて
 - (2) 今後の学校教育推進について (学校教育課)
 - ①学校 ICT 推進について
 - ②部活動の地域移行について
 - (3) 平川市社会教育基本計画 (令和5～9年度) 策定について (生涯学習課)
 - ①計画策定の趣旨とスケジュール概要について
- 5 閉会

<会議の概要>

総務課長	<p>皆様本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>ただいまから、令和4年度第1回平川市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>本日の会議でございますが、平川市総合教育会議運営要綱第6条の規定によりまして会議は公開することとしておりますので、報道関係者の入室を認めておりますことをご報告いたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、長尾市長よりご挨拶をお願いします。</p>
市長	<p>本日は、ご多忙の中、第1回平川市総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>教育委員の皆様には、日頃から当市教育行政の推進にご尽力を頂いておりますことに、心から感謝を申し上げます。</p> <p>さて、令和2年以降、健全な教育活動に大きな影響を与え続けておりました新型コロナウイルスにつきまして、政府は、5月8日より、感染症法上の位置づけを5類に引き下げる方針を決定しました。</p> <p>医療体制の見直しや、マスク着用を、個人の判断に委ねるなどの方針が検討されており、新型コロナウイルス対策は、大きな転換期を迎えようとしています。</p> <p>しかしながら、現状では新型コロナウイルスによる影響は、少なからず報告されており、教職員の皆様は、学校現場における感染症対策と教育活動の両立に、大変なご尽力をいただいているものと、心から感謝を申し上げます。</p> <p>本日の議事にあります、学校再編計画や平川市社会基本計画の策定は、市の将来像として掲げている、あふれる笑顔くらし輝く平川市を目指す中で、重要な指針となるものであります。</p>

	<p>委員の皆様方におかれましては、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただき、有意義な会議となりますようお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はよろしくお願いいたします。</p>
総務課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでははじめに、本日の資料の確認をいたします。</p> <p>資料は事前に皆様に配付しております会議の資料の青い枠のついたカラー刷りの資料です、その他に出席者名簿と席図を配付しております。不足している資料がございませんでしょうか。</p> <p>それでは、平川市総合教育会議運営要綱第4条第3項において、会議の議長は、市長をもって充てる。と規定されておりますので、ここからの進行は長尾市長にお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは暫時議事を進行させていただきます。</p> <p>本日は、学校再編計画について、今後の学校教育推進について及び令和5年度から令和9年度までの平川市社会教育基本計画策定についての3件を議事案件としまして、会議を招集いたしました。</p> <p>皆様のご協力を得まして、円滑に議事を進行してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、案件（1）学校再編計画について、事務局より説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>学校教育課の田中でございます。</p> <p>議事（1）学校再編計画についてご説明させていただきます。</p> <p>資料1ページをご覧ください。</p> <p>今回、学校再編計画を策定するに至った経緯でございます。</p> <p>学校再編計画については、その検討を平成21年度に一度行っており、当時は全国的な少子化の波は当市でも同様の状況であり、一つの学校では複式学級を開設せねばならない状況が続き、推計した出生数や転入出からも今後解消が期待できない状況でありました。</p> <p>この検討を踏まえ、子どもたちの健全な教育環境の構築を創ることを最優先であるとし、小学校のうち広船、葛川、小国の学校を廃校として12校から9校へ、中学校につきましては葛川と小国の学校を廃校として6校から4校へ再編いたしました。</p> <p>それから13年経過しておりますが、全国的な少子化は解消されることなく現在も続いており、当時の検討において今後の児童生徒の推移を見守りながら小学校においては学年2クラス、中学校においては3クラスの編成ができる規模での再編を検討するといったことや、当時廃校とした学校以外の少人数での教育活動を継続せざるを得ない状況が続いていた学校については、メリットを活かしながらデメリット</p>

をカバーする学校運営に努めるとして取り組んでまいりましたが、現在はその少子化がますます深刻化しており、学校単位での取り組みだけで克服することは難しく、学校の規模そのものに起因する課題があるのではないかと、本当に子どもにとって好ましい教育環境は何かの視点で再度学校としての適正規模を見直す必要があると判断いたしました。

これらのことにより、よりよい教育環境を整備し、児童生徒の学力向上と生きる力を育むために学校再編を進めることといたしました。

資料を見開きとしておりましたので、続けて現在の進捗状況についてもご説明させていただきます。

資料は3ページ目となりますが、併せて2ページの図中下段、令和4年度の箇所もご参照ください。

これまでご説明申し上げました検討までの経緯から、今回、令和3年度に当課において策定した計画の基本となる学校適正配置の方針を基に、市役所内の関係部署からなる庁内検討会議を立ち上げ、その後、平成21年度の検討時同様に学識経験者や地域の代表者、PTA代表者、校長会代表者からなる学校再編検討委員会により学校再編計画策定に向け、検討を重ねてまいりました。

学校適正配置計画の策定にむけ、検討を進めていくポイントとして、赤枠点線の囲みにあるとおり学校の統廃合を目的とした検討とするのではなく、あくまでも児童生徒の教育環境の充実と地域・保護者の声を最優先に考え、透明性・公平性が担保された中で検討を進めてまいりました。

今回の再編計画では、小規模校を解消し適正化を図ることで、一定規模以上の集団の中で過ごす環境が構築され、結果、よりよい人間関係を構築する能力が育まれるなどの人格形成の醸成につながることを目標の一つとしております。

また、教育活動においても、グループ学習など一定規模の枠組みを前提とする教育活動において効果に一層の期待がもてるとともに、学校運営においては一定の学校規模を上回ることで、教員の配置が増員となり、よりきめ細やかな教育活動を行う事ができるようになるなどが成果として想定しているものです。

しかしながら、これまで検討を重ねてきた中では平賀西中学校を除く、市内全ての小規模校について再編を検討するのではなく、今回は直近に迫っている複式学級の回避・解消を一番に解消すべき喫緊の課題としてとらえ、そこに焦点を充て再編計画を策定することとしました。

複式学級につきましては、これまでも市内のいくつかの学校で開設

の実績があり、現在も碓ヶ関小学校で複式学級を開設してございます。

複式学級につきましては、全国的に解消に向けた対策を検討しているところでもあり、離島やへき地など地理的事情等からやむを得ない事情によるものを除いて、解消できる可能性がある場合は積極的に解消すべきであるものと捉えてございます。

資料3ページから4ページをお開きください。学校教育課が今年度、これまで行ってまいりました検討会議や意見交換会などの実績でございます。

再編を進める過程では、実際に複式学級を経験した保護者様の参加もあり、複式学級でも不自由を感じたことはない、複式学級にも良いところは沢山あったなどのご意見も頂戴しておりましたが、それらも熟考したうえで最終的には子どもにとって好ましい教育環境は何かという観点から、少人数、複式学級の回避・解消に注力し、児童生徒の学力向上と生きる力を育むための学校再編を進めることとしました。

平成21年度の検討も含め、再編検討当初は基本的には小規模校の解消を目指すとしておりましたが、ここでいう小規模校の定義は、資料2ページ中段に記載しておりますけれども、小学校は1校につき1学年2クラス以上12学級以上、中学校は1校につき1学年3クラス以上9学級以上の規模を下回る学校が小規模校として位置づけられ、当市においては平賀西中学校以外の全小中学校が小規模校という位置づけになります。

以上の結果、まとめた最終的な計画案の概要につきましては、資料3ページ下段赤点線の囲みでお示ししてございます。

小学校につきましては、令和6年度から再度生じる大坊小学校の複式学級解消を図るため、令和6年度以降の可能な限り早い時期に柏木小学校と大坊小学校を統合又は編入する計画案とする。校舎はの場合、柏木小学校を使用する。

竹館小学校は令和8年度の1年生が6人と少ない見込みであるため、令和8年度以降の可能な限り早い時期に平賀東小学校と竹館小学校を統合又は編入する計画案とする。校舎はの場合平賀東小学校を使用する。

また、中学校につきましては、平賀東中学校は令和4～5年度で大規模改修を実施中であることから当面は現状を維持することとするが、平賀東中学校は令和13年度の1年生から1クラスずつとなることを考慮し、令和16年度以降に統合する計画をおさえたまま、毎年毎年、計画をブラッシュアップしながら進めていくという計画案とさせていただきます。

最後に想定しております今後のスケジュールですが、これまでご説

明してまいりました意見交換会や皆様からいただきましたアンケートなど、当初計画策定のポイントとして掲げていた学校の統廃合を目標とした検討ではなく、あくまでも児童生徒の教育環境の充実と地域・保護者の声を最優先に考え、計画策定を目指す、検討は透明性・公平性が担保された中で行うという目標を十分に満たしていないのではないかと考え、いま以上に保護者をはじめとした市民の方々からご意見をいただき、より多くの声を計画に反映させるためにも、当初令和4年度中に計画策定する予定であったものを、令和5年度でも継続して審議を進めていくことと計画を変更しました。

今後はこれまでのように参集が予想できないような意見交換を行うのではなく、参観日やそれぞれ学校が行うイベントなど人が集まるところへ出向き、さまざまな意見を頂戴するなどし、計画に市民の声を最大限に反映することを目標として努力することとしております。

以上、議事（1）学校再編計画について私からの説明を終わります。

市長

ただいま説明のありました内容について、ご意見、ご質問はございませんか。

工藤教育長職務代理者

ただいま説明を受けた内容の中で感じることは、学校再編計画となると即、学校を統合することが思い浮かべますが、現在この先も少子化というものはどうしても避けられないことであります。

平川市は子どもたちの学ぶための環境整備だとか子育てしやすい対策政策だとか、他に比べて大変手厚い対策をしておられるにも拘わらず少子化という傾向がある。

地域住民や保護者にとっては、学校が統廃合するあるいは無くなるというのは大変関心が高い。どうなるのかという不安も含めて地域の発展ということも考えると大変大事な地域の問題であると思うわけです。

だけでも今回提案されている内容の中では、もう統廃合を目標としたものではなくて、あくまでも子どもたちの教育環境の充実あるいは地域と保護者の願いを最優先に考える案としており、これは大変ある意味では、時宜を得た内容、計画になるのではないかと思います。

その中で、大変大事な中身であります、これまでもいろいろな説明会だとか検討会も開催し、アンケート調査もやっています。

ただ、中身をみると保護者なり地域の考え方が少し薄いのかなと感じました。

例えば4ページにある保護者のアンケート。調査客体は945人あるけれど回答は4%というのは非常に少ないと思う。

いろいろ対策なり検討を進めるなかで、この保護者の反応が薄いと感じる事態はどう見ればいいのかないかなと思いました。

	その辺りをお教えてください。
学校教育課長	<p>確かにここに書いてある数字のいずれも意見交換だったりアンケートの結果だったり、回答が少ないというのは我々も危惧し、継続審議すると舵取りをしたわけですが、考えられる要因としましては、この再編計画を進めていく中で、学校の適正化だったり学校再編という言葉を使ってきたために、その計画の内容が少しぼやけてしまったものと思われま。</p> <p>ここ一年で得られた結果や声では、これから早めに複式学級を解消するために統合編成するという声が大きかったように思います。</p> <p>この再編計画イコール統廃合になるんだと今後説明していくことによって、当事者意識を持って会議に参加していただけるのではないかなと思っております。</p> <p>今後行われる卒業式や入学式の保護者イベント等でそういった言葉を使いながら皆様の本心を聞いていきたいと思っております。</p>
市長	<p>工藤委員、今の説明でよろしいですか。</p> <p>たしかに全般的に地域の人たちの子どもたちに対する関心というのは、再編のみならず薄くなってきているというのはあるかと思しますので、これからはその辺をどのようにして、地域として関心を持っていくようにしていけるのか、いろいろな機会を得ながら考えたり意見を伺わなければならないのかと思っております。</p> <p>他にございませんか。</p>
中嶋委員	<p>保護者の皆様方の声をたくさん寄せていただくというのは大変大事なことであると思っております。</p> <p>そのうえで、学校でも、年度の最後のまとめに入っているかと思っておりますけれど、参観日とかも開かれるような状況ですので、少しの時間であっても具体的に、この時間にこの程度お願いしますというのを学校側と詰めていただきながら、再度確認していただいて、これまでの開かれた意見交換会などの状況を保護者の皆様の耳に届くように配慮していただければと思います。</p>
学校教育課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>こちら、資料4ページに今後予定している意見交換会がございます。まずは保護者との意見交換会がありますが、こちら検討する学校、柏木小学校や大坊小学校、竹館小学校、平賀東小学校です。</p> <p>そこに特化して、学校の協力のもと、時間を作ってくださいというご案内、お願いをさせていただいております。</p> <p>また、関係する学校評議員の皆様にも集まっていただくことも調整済みです。</p> <p>この他にも学校便り等を使って、今の状況をリアルタイムでお知らせ</p>

	<p>できるように学校のお力添えをいただきながら進めていくよう調整中です。</p>
市長	<p>他にご意見ございませんか。</p>
葛西委員	<p>資料の1に、平成21年度の資料も載っております。</p> <p>ここでは、広船、葛川、小国小学校、中学校という、ある意味、その時点で、非常に過疎化も進んで子どもたちの人数も少ない、そういうことを考えますと、スクールバスを使つての統合でよかつたと思つています。</p> <p>先ほど工藤委員も仰つたとおり、今回の大坊小学校、竹館小学校につきましては、やはり今の4校とは少し内容が違いますので、しっかりと皆様のご意見をいただきながらじっくりと進めていただくことが正しいと感じております。</p> <p>アンケートの中で、複式学級の解消を進めていただきたいという意見もあつたと先ほどお聞きしましたけれど、逆に、複式の良さが書かれた意見はありましたか。</p>
学校教育課長	<p>学校再編検討委員会の中にも複式学級を経験された保護者様がいらして、自分の時は和気あいあいとできたし、人となりを知ることができた。そういうところは他の学校では経験できない。という意見をいただいております。</p>
葛西委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>そういうご意見もあるんでしょうけれど、やはり先ほど課長も仰つたとおり、本当に子どもたちにとってよりよい教育環境とは何なのかを追及していくと、複式ですといろいろなデメリットも出てくるかと思つています。</p> <p>なぜならば、学年を追うごとに学ぶことは増えていくわけですし、レベルも上がっていく。</p> <p>それを複式の中でやっつていこうとすると、いろんな意味で負荷が生じてくると思つています。</p> <p>複式の解消、私もそのほうがよろしいかと思つのですが、その辺のご意見もしっかり聞きながら、みなさんが納得できる方向に進んでいけたらなと思つていますのでよろしくお願ひします。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にご意見ございませんか。</p>
加藤委員	<p>親の立場からすると期待と不安があり、どうなるのか知りたいと思つています。</p> <p>でも、この意見が通るのかどうか、言つてもダメなんじゃないか、とういつた諦めもどこかであると思つています。</p> <p>ですから保護者の方々を集める工夫をこれからなさるといふことで</p>

	<p>すので、がんばってください。</p> <p>その一方でいままでの中でどういった意見が多かったのかお教えてください。</p>
学校教育課長	<p>意見としましては、子どもを通わせている保護者に関しては、自分の子どもが通っているうちに複式学級になるようなことはしてほしくない。ということをおっしゃっております。</p> <p>また、今後学校へ通う予定の未就学児童の保護者からもそういうことをおっしゃっておりまして、またこの意見交換会に出られなかったということで直接教育委員会にお手紙をいただいております。</p> <p>ただ、その他、地域住民の方からは、防災拠点でもあるし地域のシンボルだから何とかしてほしい、という意見もありますが、保護者からは概ね自分の子どものためには複式学級を回避していただきたいという強い願いがあったと私は感じ取っております。</p> <p>いかんせん、この分母に対しての分子ですので、それを真に受けての計画とするのではなくて、今後もご意見を聞いていきたいというところがございます。</p>
加藤委員	<p>ありがとうございます。</p>
市長	<p>なかなか、難しいところもあるかと思いますが、ちょっと気になったのが、先ほど加藤委員も言った、アンケートの回答が少ないのは、ある意味では諦めもあるのかなという意見が気になったのですが、そこについては、感じられるようなところはありますか。</p>
学校教育課長	<p>総合運動施設で行ったワークショップの際には、自分の声を反映させたいという気持ちでいらしたので、諦めの気分でお話しされている方はおりませんでした。</p> <p>最初、私たちから、「どんな意見でも結構です。統合ありきではないので、包み隠さず、自分の思うとおりにお話しください。」ということをお願いしておりました。</p> <p>手厳しい意見もございましたので真摯に受け止め、なぜそのような意見になったのか解析しながら、次に進めるような形としておりました。</p>
教育委員会 事務局長	<p>例えば、意見交換会でも回答が少なかった要因としましては、やはり再編計画を進めるにあたっては、統廃合を含めての今後の進め方の検討という内容だったので、少しテーマとしては漠然としており関心を寄せられなかったのかなと。</p> <p>逆に、全面に統廃合を押し出す感じとなれば、地域の人から学校がなくなるのかとなっていていろんな意見があると思いますが、統廃合含めての検討で、みなさん最初は関心がないという感じだったので、アンケートが少ないなどの要因となったのではないかなと思います。</p>

工藤委員	<p>今までの方と同じようなことを感じておりました。</p> <p>特に加藤委員と同じようなことを感じていて、親御さんにしてみれば、やはり自分たちの意見が通るんだろうかという不安が大きいのではないかと感じました。</p> <p>やはり、統廃合ありきではなくというそういうところがあったの結果だったのかなと思いました。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今まで、いろんなご意見をいただきましたけれど、このほかに今の教育委員会の取組みの仕方でもいいですのでご意見等ございませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>他にご意見、ご質問がないようですので、案件（１）の学校再編計画については調整されたことといたします。</p> <p>続いて、案件（２）今後の学校教育推進について、事務局より説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>議事（２）今後の学校教育推進についてご説明させていただきます。</p> <p>資料５ページをお開きください。</p> <p>学校ＩＣＴの推進につきましては、当初令和５年度までに児童生徒１人１台の専用パソコンを整備するとしていた目標を前倒しし、令和２年度で予定していたハードのほぼ全てを整備し、コロナ禍であっても児童生徒の学習を途切れさせることなく、災害等にも継続できる学習環境を構築しました。</p> <p>また、令和３年度の１０月から現在に至るまで、これら急速に整備した学校ＩＣＴ化に対応する教職員の負担を軽減するために学校ＩＣＴ支援員を導入し、教職員をサポートしながら通常の授業においても小中学校全学年で幅広く利活用できる環境も構築しております。</p> <p>このような取組みの成果もあり、現在は学校ＩＣＴ学習の定着を回りつつ、家庭学習にも活用域を広げるなど、推進の加速化に向けて指導課の協力を得ながら対応しているところです。</p> <p>また、令和５年度においては教職員の業務負担軽減及び教育の質的向上を図るため、統合型校務支援システムを市内全小中学校教職員に対し導入する予定です。</p> <p>この統合型校務支援システムを導入することにより、利用する市内小中学校では、これまで紙や複数のソフトウェアを併用しての作業が必要であった児童生徒の成績処理や出欠管理、指導要録等さまざまな調書作成作業が一元化されるほか、教職員グループウェアによる電子メール管理、スケジュール管理等が一元化、事務が簡略化されることとなり、働き方改革の一助となることが期待されております。</p>

	<p>赤点線囲み部分には、これまでの整備内容を記載しております。</p> <p>ハードウェア、ソフトウェアの整備状況については、当市は国が進めるG I G Aスクール構想に照らし合わせても順調に進んでいる状況であり、今後はこれらのツールを生かすべく、定着に力を入れて対応してまいります。</p>
市長	<p>この学校 I C T の推進状況についてご意見、ご質問はございませんか。</p> <p>市としてはこのG I G Aスクール構想に先駆けてといたしますか、国の方針より早めに進めています。先生方の支援もあるので、統合型校務支援システムの導入を進めておりますけれども、これまでやってきた今の I C T 教育の推進の仕方を感じていることがあればお願いします。</p>
葛西委員	<p>学校訪問等でも積極的に児童生徒が勉強に活用している姿を見ております。かなりみなさん今までの紙の教科書という媒体よりも興味があるようです。教室の中も明るく和気あいあいと授業に参加する姿をみておりますので、本当によかったと思いますし、コロナ禍における学校に出てこれない方についても教育委員会でフォローされていたので安心しておりました。</p> <p>その中で、統合型校務支援システムについて、課長のほうからご説明いただいたのですが、導入することで目に見えてよくなることがありましたら教えていただきたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>統合型校務支援システムですが、成績処理や出欠管理等については、それぞれのエクセル等の複数のソフトウェアを駆使して整理していたものが、一つのシステムに児童生徒の情報が紐づけられていくので、目に見えて成果が分かるものだと考えております。</p> <p>先行して導入している八戸市で勤務されていた先生のお話を聞いたところ、平川市には導入されていなかったもので、ぜひ入れるべきだとの意見を頂戴し、その利便性を分かっているからこそその意見だと捉えて、働き方の一助となるように早めに推進するべきと判断し、進めているところです。</p>
葛西委員	<p>これが導入されることによってこれまでのいろいろな業務の時間が短縮されて、その分子どもたちに関わる時間が増えたり、ひいては教職員の方々の働き方改革につながっていただければ。</p> <p>先生方も疲れていてはいい授業ができないと思いますので、いい授業、笑顔あふれる学校をつくっていただければと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にご意見ご質問のある方いらっしゃいませんか。</p>
工藤教育長職	<p>学校 I C T の推進については、わが平川市でもだいぶ進んでいると</p>

<p>務代理者</p>	<p>いう気もしています。その中でいわゆるパソコン、端末ですけども、家庭学習にまでも広げて進めているとのことのお話です。</p> <p>その場合、安全な使用について、保守点検も含めてどのような対策が必要で、何をしているのかありましたら聞きたいと思います。</p> <p>それから、この統合型校務支援システムは、教職員にとっては大変ありがたいものだと思います。ただ、いろんなものを処理するわけですので、ワンパターンになってそこから出ない。評価も含めての子どもたちの学習で、先生も分別をしながら、いろいろなソフトを使ってきたので、一つになってしまってワンパターンとなる心配があるのですがどのように考えればよいでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>まず一つセキュリティについてです。</p> <p>市役所の職員同様に、学校用のセキュリティポリシー、決まりを作っております。そのモラルのところでセキュリティを担保する。</p> <p>あとは家庭学習のために持っていくこととなりますが、持って行った先でも、指導課と協力しながら、約束事を決めております。</p> <p>それからもう一つですけど、コロナ禍であったり、通常のインフルエンザも流行しております。当市でも学級閉鎖をしなければならない時もありました。</p> <p>その時は、子どもたちのほかに、親も休んでいることもあるので、保護者も一緒になりながら、変な操作をしないか、悪質なサイトにアクセスしないか人的に見守っていただいているので、セキュリティは担保されていると思っております。</p> <p>あと、2点目の統合型校務支援システムのお話でございますが、教員の学校での授業での使い方については、別のネットワークのタブレットパソコンにより授業を行っておりますので、そこは先生の個々の特色を授業に生かすことができる状況です。</p> <p>統合型校務支援システムについては、成績管理や出欠等の規則に定められたものを簡素化するというところなので、ワンパターンになりますが正しいものとなります。</p> <p>工藤委員が仰ったものは別のタブレットを使用することとなりますので、問題はないかと考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>他にご意見はありませんか。</p>
<p>中嶋委員</p>	<p>令和5年度に関しては、統合型校務支援システム導入等により、教員の先生方の教務の見直しを効果的に進められる計画となっております、非常に大事なものだと思います。</p> <p>働き方改革につながるでしょうし、より、効果的な活用ということでこれから期待できると思います。</p> <p>併せて、令和3年度から4年度にかけて実施してきました、主役で</p>

	<p>ある子どもたちの活用、ICT支援員の活用も含めて検証していただきたい。</p> <p>先ほど市長からコロナのステージの格下げの話がされてましたけれど、マスクを外し、和気あいあいとしたやり取りの中で子どもたちが切磋琢磨し、今日来てよかった、明日もまた来たいとなるよう、引き続き、いろいろな実践、工夫例を共有して進めていけるようにご配慮願いたいと思います。</p>
市長	ありがとうございます。
学校教育課長	<p>令和3年度から令和4年度で学校ICT支援員を展開すると資料の中にも書いてございます。当初学校教育課の想定としましては、このハードを入れた2年間で、教員の負担軽減のために、学校ICT支援員を展開するというような計画でしたが、この学校ICT支援員がコロナ禍ですごく力を発揮しております。学校からの要望もございまして、関係部局と討議のうえ、来年度1年間だけ規模は縮小しますが、学校ICT支援員を展開しながら、機械を普通の勉強道具と同じような使い方ができるように、定着に向けて取り組んでまいります。</p>
市長	<p>先ほどの中嶋委員の質問の中に、ICTに関して令和2年度から取り組んで3年経過した中で、今までの検証をして次に進んだほうがいいというようなお話がありましたが、そのことについて何かありましたらお願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>検証ですが、毎月毎月学校ICT支援が報告書を提出しています。</p> <p>当初我々が想定していなかった、学校の中のICT担当教諭を育てて、学校ICT支援員がいなくなったとしても、そのまま情報共有だとか協力しあって進めていけるような関係を構築していけることが課題であって、そういうところに取り組んでいけたらと思っております。</p>
指導課長	<p>今の田中課長のお話に付け加えまして、令和2年度から平川市内の学校には、ICT活用の指定校を指定し、子どもたちがどのように活用しているかという点について、全部の学校で共有できるようにしております。</p> <p>ICTをいかに活用すれば、学びにうまく使っていけるのか、ICT支援員も含めて進めており、みんなで共有しながら、検証に代えて行っているとご理解いただきたいと思います。</p> <p>もちろん今後も、2年3年というひとくり、4年5年というひとくり、6年7年というひとくりで、全部の学校を指定するよう進めていたところです。</p>
市長	<p>他にご意見ありませんか。</p> <p>議事の2はもう一つございますので、次の部活動の地域移行への対応状況について説明いただいてから質問があればお願いいたします。</p>

学校教育課長

続きまして、②部活動の地域移行への対応状況について説明させていただきます。

資料は5ページ下段となります。

令和4年6月にスポーツ庁での有識者会議で提言された、公立中学校における休日の運動部の部活動を外部に移行する部活動改革については、少子化による部活動の減少や教員の長時間勤務解消のための働き方改革を目的とした施策であり、本県においても同年11月に担当者会議が開催されました。

この会議では、地域移行に際しての課題である家庭の費用負担が増えるのではないかとといった懸念や人材の確保が難しいこと、運動部活動と文化部活動の対応の違い等が話題となりました。

当初国は本事業推進に際し、令和7年度までを努力目標として定めておりましたが、現在の国の計画では、その達成時期については一律に定めず、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すと変更されており、令和4年12月の同時期には、スポーツ庁及び文化庁より学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインが示されました。

この中では、今後の整備体制に向けた手順が示されており、はじめに県が部活動の在り方に関する方針を策定し、それを受け市が県の方針を参考に設置する学校に係る部活動の方針を策定することとなります。最後に市内小・中学校長が市の方針に則り学校の部活動に係る活動方針を策定することとなります。

直近において、努力目標の達成時期変更の事例もあるとおり、本案件につきましては保護者や地域住民など、与える影響度合いが大きいこともあり、流動的な様相を呈しておりますが、国、県からの情報や近隣市町村の取組み状況など、情報収集をしっかりとし、地域移行に向けた取組みについて、学校と連携を図りながら段階的に進めて行く予定です。

市長

ご意見、ご質問のある方お願いします。

加藤委員

実際のところ非常に難しい問題ですがうまくいってほしいと思っています。

中学生だけではなく小学生にも感じるんですけど、学校が終わって、スポーツを学びに行ける環境にある子であればいいんだけど、そうでない子どもたちは、話を聞くと、ただ集まってゲームをやっていると。可哀そうだと感じる場合があります。

ですから、これは本当に、うまくいってほしいと願っています。

工藤泰子委員

確かに今の時代は学校の授業が終わると部活動があった、という時代ではなくて、今は学校が終わると場所を変えてのクラブやスイミン

	<p>グなど、いろんな方面に活動の場を広げて、それによってまたいろんなチャンスに巡りあうこともたくさんあって素晴らしいことだと思います。</p> <p>ただ、そういうチャンスがある子どもたちは幸せだと思いますけれど、行けない子も中にはいるので、みんながうまくいくような形というのは難しい問題があると感じます。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他に、この地域移行に関して、ご質問ご意見のある方。</p> <p>よく部活動の地域移行に関しては、指導者のことも言われますけれど、その点も含めながらご意見を頂戴できればと思います。</p>
工藤教育長職務代理者	<p>この部活動というのは、実態からすると確かに学校の先生の負担で、献身的とっていいくらいに行っている先生もいるわけです。</p> <p>先生自身は案外、負担に感じていないのではないかと、むしろ生きがいに感じている先生もおられるのではないかとこの気もするわけですが、現実的には、スポーツにしても文化部活動にしても、学校の部活動については現実には、なんというか、振興の土台、基礎的なものになっている気がするわけです。</p> <p>地域のクラブ活動に移行して、発展し盛んになればいいことではあるわけですが、先生のモチベーションが落ちることにならないか。あるいは、指導者の確保が本当にできるのかといういろんな課題が目に見えてくるわけですが、今のところ段階的に進めていく方針だという点については納得です。</p> <p>もう少し現実を私たちも見つめながら、それに沿った進み方をしていくのがいいのかなと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の工藤委員の考え方といいいますか質問も入っているかと思ますのでどうでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>まずモチベーションについての話です。当市では部活動の地域移行に関してはできていない、ソフトボール等人数的なところで地域移行している例もございますが、先生の中には、本当に自分がそのスポーツが好きで、タイムカードを押してからでも指導したいという先生もいれば、反面、嫌々で忙しくてやりたくないという先生もいらっしゃると思います。</p> <p>今回モチベーションというお話でしたけれど、県の方針がどのようになって、どのような取り扱いになるか見えておりませんので、それを見てから判断させていただければと思います。</p> <p>次に指導者の確保についてですが、現在の状況でお話させていただくと、確かに工藤委員がご心配されるように、確保は困難だと考えて</p>

	<p>おります。</p> <p>例えば、弘前に近い地区の学校の子どもであれば、クラブはいくつもあるかと思いますが、山手の方になれば、なかなか弘前のクラブまで行くことができない。地区の中に指導者がいなければそちらへ出向くしかなくなるので、概要が分かった時に情報を収集しながら進めてまいりたいと考えております。</p>
市長	<p>工藤委員、そういう状況だそうです。</p> <p>今取組みを始めようとしている所で、この中にもありますように、県で部活動の在り方に関する方針をこれから策定していく、県の方針を参考に設置する部活動を策定していくと。</p> <p>その辺をにらみ合いながらどのように移行していったらいいのか、先生のモチベーションもあるでしょうし、また指導者がそろえばよいですけれど、地域によってはアトランダムというか、できる種目もあればできない種目もあるということで、ある部活動すべてに指導者がつくということにもならないと思うので、その辺これからの課題でないかなと思います。</p> <p>その他にご意見ご質問のある方。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>ないようですので、案件（２）の今後の学校教育推進についてに関しましては調整されたことといたします。</p> <p>続いて、議事（３）平川市社会教育基本計画策定について、事務局より説明をお願いします。</p>
生涯学習課長	<p>生涯学習課の後藤でございます。</p> <p>議事（３）平川市社会教育基本計画、令和５年度から９年度のものもの策定についてご説明させていただきます。</p> <p>資料の６ページになります。</p> <p>①計画策定の趣旨について説明いたします。</p> <p>平川市社会教育基本計画は、市の社会教育行政推進の指針となるもので、計画期間を５年間として平成２０年度より策定・更新してきたものです。</p> <p>近年、自治体を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化はもとより、ＩＣＴの急速な進化によるライフスタイル・ワークスタイルの変革など、社会の変化を踏まえた新しい施策の展開が求められています。</p> <p>こうした社会情勢に対応していくためには、市民・事業者・学校・行政が連携し、未来を見据えたひとづくり・まちづくりを推進していく必要があり、市民の積極的な学習活動や地域社会への参画の促進が求められています。</p> <p>このようなことから、第２次平川市長期総合プラン及び平川市教育</p>

振興計画を踏まえ、よりよい社会教育行政の指針となる計画を策定するものです。

続いて、②策定のスケジュールについて説明いたします。

令和4年5月、社会教育委員の会議において、今年度策定の旨を説明し、前計画をもとに、意見聴取を行っております。

6月から、教育委員会職員による検討委員会を立ち上げ、計画の原案を作成いたしました。

12月、社会教育委員の会議で原案をお示しし、再度意見を頂戴いたしました。

12月からパブリックコメントを募集し、1月18日までに2名の市民の方から意見を頂戴し、内容と事務局の考え方について、市ホームページで公表しております。

これらを踏まえた計画案については、2月16日の定例教育委員会会議においてご審議いただくこととしており、承認いただければ年度内に公表する予定としております。

以上、平川市社会教育基本計画について私からの説明を終わります。

市長

ただいま説明のあった内容について、ご意見、ご質問のある方お願いいたします。

中嶋委員

これまでの計画に基づく取組みについて、特に課題であったなというところがあったらお願いいたします。

また、今後発展させていくためにどの部分に力を入れていったら地域の方、もちろん若者のみなさん含めて、共に進んでいける状況になっていけるか感じているところがあればよろしく申し上げます。

生涯学習課長

特に課題であった点ということですが、課題はさまざまな分野ではありますが、まずは社会教育団体ですと、どの団体も高齢化、人が少なくなって団体の維持が難しいという団体が増えているという状況です。ここ10年20年続いている問題かと思いました。

また、2つ目ですが、特に子ども会ですが、新しい子どもたち親御さんたちが次々入ってきて継続されるべき団体でありますけれど、その子ども会についても、後継者不足という形で継続が難しいというような状況であります。またそれをコロナ禍が後押ししてしまって、難しい状況にあると感じています。

今後どのような部分に力を入れていけば課題の解決等につながっていくかということですが、簡単な解決策はないものであるんですけども、来年度に向けて今考えているのは、青年層の社会教育、自分たちで考えて作っていく体験を行っていただける事業、社会教育チャレンジ支援事業というのを令和5年度から開催していこうと考えております。

	<p>こちらは若い方、40歳くらいまでの方を募集して学習、実践を支援、援助していくということであります。</p> <p>もう一点は子ども会ですが、減少を食い止める点について考えているのは、無くなった地域の子どもの隣地域、学区で救ってあげられないかなと考えておりました、まずは実際の子ども会の方、保護者の方、町会の方々にも支援いただけないかお話を聞いていきたいと思っていました。</p>
中嶋委員	<p>先ほど子ども会というお話が出ましたが、今まであった子ども会が消滅していくことがあったり、その子ども会のために協力して下さる方々もいるかと思えます。ただそういう方もそのことがだんだんとできなくなってくる実態もあるかもしれません。</p> <p>ですので、そういったときに、活動するためには、安全が確保されていなければいけないので、各子ども会でも保険に入るなど、さまざま対策を講じておられると思います。</p> <p>ただ、関わる方が少なくなっていく状況の中で、資金といいますか活動費が集まらない場合なども考えられます。</p> <p>可能な限り、そういった状況を把握していただきながら、安心して協力でき、安心して地域で活動できたことに喜びをもてる、この平川市で活動できてよかったという風になるようなことにつながればいいなと思います。</p> <p>そしてこれまでも青年の方々と中心に様々な声を吸収していただいていることもあって、それは頼もしいなと常々感じておりましたけれど、さらに進めてほしいなと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にご意見ご質問ありませんか。</p> <p>今生涯学習課では、青年に対する取組みとしては、未来の担い手育成事業がありましたが、モデルチェンジしての新しい事業になろうかと思えます。</p>
葛西委員	<p>子ども会の話をしていただくと、幼いころ当たり前のように小学校の学区ごとに子ども会がありまして、学区ごとに集まっての活動もありました。</p> <p>今、はコロナ禍もあって、ねぷたまつりが久々に開催されたとあっても、30数台の参加がなかなか見込めないレベルとなって残念な気持ちでした。</p> <p>ただ、市が子どもたちの医療費入院費無償化ですとか、給食費の無償化、そして移住者のバックアップに本当に尽力されていることもわかっておりますし、私の知り合いでも他の市町村から移住しています。嬉しい限りです。</p>

それを踏まえて、さらに子どもたちを増やす人々を増やすということを考えていくと、大鰐町で進めているのは、まずもって子どもたちが幼いころから、大鰐町が地域の良さを徹底的に子どもたちにお話しするんだそうです。大鰐温泉もやしだとか様々なものがありますけれども、わが平川市でも、平川市ならではの魅力はたくさんあるはずなんです。我々普段過ごしているとなかなか気づきにくいですが、よく最近テレビで言われるのは外国人観光客が日本にきて、東南アジアとか雪の降らない地域の人たちは雪をみるだけで興奮してしまうんです。これは私たちからすればただの雪なんですけれども、そういう人たちの心をつかめる、実は財産、資産であるのかなと思います。

その他世界に通用するさまざまなものがあると思います。手前味噌ですけれども、例えば平川市内のりんごですとか。これはもう世界で一番ですけれども、様々な技術などを、改めて評価することができれば、子どもたちが、ここがすごいという風に親御さんから聞いて育てば、平川市ってすごいところだねという思いになります。そこで、子どもたちの成長とともに、事業所や行政の方が学校と組んで、そういう子どもたちを実際に他のエリアの人たち、欲を言えば東京の人たちに向けて、情報発信をしてもらって交流をもって、やっぱりすごいまちだったんだとなってくると、子どもたちはまちに誇りを持つわけですから、進学のために県外に行ってもまた戻ってきてくれる人は増えるかもしれません。大好きなまちになっているのだから。そういうことを踏まえて進めていくことが必要なのかなと。そういった人口が減らない取組みというのが大事なんだと思いますので考えてやっていただければと思います。

市長	ご意見としていただきたいと思います。 他にございませんか。
工藤教育長職務代理者	この社会教育の基本計画は、まちづくりの大変大事なものになるかと思います。 最近、発行された平川の文集を見ましても、小学校の高学年となると、世の中のことをもの凄く真剣に考えている。それから中学生は、もちろん自分たちのことだけではなくて世の中のことをもの凄く発信している感じがします。 そういう意味で行くと、子どもたちをしっかりと、市の中でも社会教育というところに組み込んでいくというのは非常に大事なことだと思います。 ここずっと人が集まりみんなで一緒に考えるという機会がコロナ禍で奪われたわけですが、その中できちっと対応できるような、奪われたままでなくて、対策を進めていくことは非常に大事だという

気がします。

そういう意味でいくと子ども会とか課題が多いわけですけど、全体的に今の世の中をしっかりと捉えた中で、子どもたちが進んでいる、考えているものを組み込んだ社会教育というようなものです。

当然なかには18歳から40歳までの青年層の事業を参加させて取り組んでいくという方針は得ていますが、もうちょっとその土台となる子どもたちのほうにも目を向けていただければいいのかなという気がしています。

市長

素晴らしいご意見ありがとうございます。

他にございませんか。

時代の変化とともに、この社会教育の在り方も少しずつ変わってきたような気がします。

私事ですけど、私自身この社会教育の中で育てていただいて、自分たちの地域は自分たちで作るんだという思いのもとにさまざま活動してきたのですが、当時は社会教育の三本柱というのは、青年団、婦人会、PTAだったんですが、いまPTA以外は弱体化、青年団にあたってはほとんどなくなりました。

そういう時代の変化によって社会教育の在り方というのも変わってきているのかなという風には思いますし、またその変化に対応していかなければならなくなっているという、生涯学習課は非常に大事な組織であるのかなと思っています。

政策推進課で、若者たちの取組みとしてユース議会というものを行っていますけれど、この生涯学習とも合わせながら、この平川市の若い人たちにどのように地域に愛着を持ってもらうか、自分たちがそこから旅立ってもまた帰ってこられるかどうか、愛着を持てるような取組みは大事なことで私自身思っていますので、是非みなさんにも思いを共有していただければと思います。

他にご意見ご質問がありましたらよろしくお願いします。

よろしいですか。

葛西委員が言われた大鰐町の地域の良さを子どもたちに徹底して教えるという、これも地域づくりというか、子どもたちのUターンIターンを進めるうえでも、積み重ねが大事かと思っておりますので、参考にしたいなと思います。

中嶋委員

地域の良さというものを表すものの一つに、地域の伝統芸能もあるかと思えます。獅子舞、荒馬、駒踊とか地域地域によってあるわけです。この会議の冒頭にもありました学校の統合等は、できるだけ中学校学区の中で対応されているという状況が進んでいるわけですけど、それにしても地域ごとに伝統芸能があるわけです。学校によって

はクラブの一環として取り入れてたりしながら取り組んできたところがありました。

今後、統合またはいろんな形で一緒になることが進んでいく中で、大切な宝、無形文化財といったものを含めて、文化的な財産、これをどう次の時代へ引き継ぎ、バトンタッチしていけるのかということも含めて、全て学校現場に直結するわけにはいかないと思います。

社会教育の中でも考えておられるところですけど、育成、伝統を引き継ぎバトンタッチしていくことについても用意をしながら進めていく必要があるとこの会を通して感じております。

これもまた一筋縄ではいかないと思いますけれど、この時代にあっても古き良き時代から伝わってきたものに興味を持つお子さんたちもいます。

笛であったり鉦であったり太鼓であったり舞いなどへ興味関心を育てていけるならば、平川市もいいと思いますので、一緒に考えていけたらと思います。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。

他にご意見、ご質問がないようですので、案件（３）の令和５年度から令和９年度までの平川市社会教育基本計画の策定については調整されたことといたします。

本日は、教育委員の皆様からは、たくさんのご意見等をいただき、ありがとうございました。

最後に教育長から一言お願いします。

教育長

本日は、総合教育会議を開催していただき、ありがとうございます。また、日頃より、平川市の教育行政に対しまして、格別のご配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

本日の議題にもありました学校適正化に伴う再編計画は、全国的な少子化の流れの中で、学校機能の一定規模を確保し教育効果を高めることを目標とし、取り組んでいるものでございます。

本市では学校に集う子ども達、保護者、地域の皆様方の声を最優先に考え、計画に反映して参りたいと考えているところです。

また、学校ICT推進、教員の働き方改革への一助となることが期待されている部活動の地域移行など、今後の教育行政発展のため、私たち教育委員会が取り組むべき課題は山積しております。

さらに、平川市社会教育基本計画策定につきましては、担当課長より報告がありましたように、次回の教育委員会定例会での承認を経て、よりよい社会教育行政のための新しい一步を踏み出すこととなります。

皆様方におかれましては、今後につきましても、あふれる笑顔から

し輝く平川市の実現に向けて、子どもたちに平川愛を育みながら、より良い教育行政に取り組んで参りたいと考えておりますので、皆様方のご協力とご高配を賜りますようよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

市長

ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。